

世界遺産登録 暫定一覧表への 登録を要望しました

今回の要望活動は、構成資産の文化財国指定や地元の気運醸成など、「阿蘇」の世界文化遺産登録に向けた取り組みが着実に進んでいることを文化庁へ示し、「阿蘇」が世界遺産暫定一覧表へ早期に記載されることを目的として行われたものです。

今後も、「阿蘇」の世界文化遺産登録に向けて、熊本県と阿蘇郡市町村は一体となって取り組みを進めて参ります。

令和元年8月23日、「阿蘇世界文化遺産登録推進協議会」の構成員である蒲島熊本県知事と阿蘇郡市の七市町村長は、文化庁を訪問し、中岡文化庁次長へ要望書を手渡しました。



中岡文化庁次長への要望風景



海外の芸術家が村で活動 レジデンス for 阿蘇世界文化遺産

エミリア・ノードホエックさん
芸術分野：陶芸
出身・在住：アメリカ・ハワイ
モロカイ・アートセンター所属

9月24日～11月7日までの約40日間、アメリカ・ハワイの芸術家、エミリア・ノードホエックさんが村に滞在し、陶芸の作品を制作する芸術活動を行っています。

これは県の事業で、阿蘇地域の市町村が、海外アーティストが創作活動に取り組める環境を提供し、阿蘇を題材とした芸術作品を制作および発表してもらうもの。世界文化遺産登録を目指す阿蘇の魅力や情報を全世界へ向けて発信すると共に、アーティストと地域住民との交流をととして文化芸術の魅力を知ることにつなげる目的で、5年前から実施されています。村では今年度が初めての取り組み。10月19日に開催されたあきまつりではワークショップを実施し、来場した地域の皆さんにも作品への絵付け体験をしてもらいました。

エミリアさんは、「美しい南阿蘇村の自然、素晴らしい人々に触れて、作品を作る機会がもらえて感謝しています。赤土など、この土地のものを使って作品を作っていきたい」と話されています。

完成した作品は、11月4日（月・振）まで熊本市の「ギャラリー武智」（熊本市中央区水道町4-1 アートビル）で展示されています。展示は午前10時から午後5時まで、最終日のみ午後3時まで行われます。ぜひ足をお運びください。



子どもたちの作品が掲示された屋内スペース

2019
谷人たちの美術館
今年で15年目となる「谷人たちの美術館」が、10月1日から14日まで開催されました。期間中の2週間は村全体を美術館に見立てて村内29カ所のギャラリーや工房などが公開され、さまざまな作品の展示や体験講座などが行われました。今回は新たな取り組みとして、子どもたちにもアーティストとして参加してもらえる企画を実施。夏休み前に募集を行い、集まった122点の作品が屋内で展示されました。